

2007. 9. 28 第30号



地域づくりコミュニケーション  
— 農村振興メールマガジン —

農林水産省農村振興局



◆◇ 目次 ◇◆

【 農村振興支援情報 】

- 美しい農村を守り育むために
  - ◇ 農地・水・環境保全向上対策の取組
  
  - ◇ 「子ども農山漁村交流プロジェクト」を発表しました
  
  - ◇ オーライ！ニッポン大賞の募集を今年度も行います
  
  - ◇ オーライ！ニッポンWEBが全面的にリニューアルされます！
  
  - ◇ オーライ！ニッポン地方シンポジウムを山形県で開催
  
  - ◇ 全国農村アメニティ・シンポジウムの開催について
  
  - ◇ 農村景観パンフレット第2弾！
  
- 地域の実態に応じた多様な取組
  - ◇ 観る人が「元気」をもらう劇団  
～劇団ぜんとうようようくらぶ（代表志村尚一 岩手県花巻市）～
  
  - ◇ 北東北まほろばシンポジウムを開催します
  
- 報告&お知らせ
  - ◇ 「農山漁村の郷土料理百選」に係るインターネット人気投票の中間結果について

\*\*\*\*\*

- 美しい農村を守り育むために
  - ◇ 農地・水・環境保全向上対策の取組

◇ 「冬水田んぼ」によるコハクチョウの飛来  
～福井県三方上中郡若狭町 「下吉田農村環境向上協議会」～

福井県若狭町の南部、旧上中町の中心部で農地・水・環境保全向上対策に取り組んでいる「下吉田農村環境向上協議会」（下吉田地区）は、平成17年度にラムサール条約の登録湿地として認定された三方五湖に近接する水稲作中心の山間農業地域です。協定農用地は集落内の水田約30haであり、若狭下吉田営農組合のほか自治会等5団体が参画した組織です。「コハクチョウが飛来できる良好な農村環境の保全」を目指して集落が一丸となって共同活動に取り組んでいます。その中でも特に力をいれているのが「冬水田んぼ」の取組です。

下吉田地区では、本対策に取り組む以前から、「コハクチョウが飛来できる農村環境の実現」を目的に集落内の水田約13haで「冬水田んぼ」いわゆる『冬期湛水』に取り組んでいます。なぜ、この地区で「冬水田んぼ」の取組が拡大したのか、それは次の2つの理由からです。

- ①「地の利」：水田の基盤整備により、冬期かんがい用水を自然圧パイプラインにより常時自由に補給できます。また、河川沿いに広がる浅耕土の乾田地域であるため、冬期湛水による湿田化の心配がありません。
- ②「営農効果」：冬期湛水により雑草の抑草効果、施肥効果の発現が期待されるためです。

このように、積極的に取り組んだ「冬水田んぼ」の活動により、県域準絶滅危惧種のコハクチョウが飛来するようになりました。昨年度もシベリアから飛来し、2番穂を啄みながら滞在していました。三方五湖周辺の田んぼにコハクチョウが飛来することは、越冬の拠点が分散化され伝染病による被害を受ける可能性が低くなる効果が得られる等大変喜ばしいことです。

また、この「冬水田んぼ」活動を通して地域活性の気運が高まり、当地区で収穫された米を「冬水田んぼ米」、「コハクチョウ米」等のネーミングで地域ブランド米としての販売を企画するようにもなりました。

今年度、本地区では、活動組織で農村環境向上活動として引き続き「冬水田んぼ」に取り組み、またこの取組を隣接集落へPRし、「冬水田んぼ」を広げていきたいと考えています。

=====

◇ がんばっています、能登半島！ 地域全体で取組む景観形成活動  
～石川県羽咋郡宝達志水町 「宝達権現上田グループ」～

「上田地区」は、石川県のほぼ中央部、能登一の高峰である宝達山から日本海に至る扇状地に位置し、宝達川と大坪川の恵みを受けた水田中心の自然豊かな農村地帯です。

本地区では、ほ場整備事業を契機に担い手への農地集積や集落営農が始まり、また環境向上を目的としたボランティア団体も発足していました。

このような中、既存の各団体が連携し、地域一体（3集落）で豊かな自然環境を保全するため、本対策の活動組織「宝達権現上田グループ」を設立しました。地域の象徴である宝達山と海に流れついた仏様を奉っていた権現様とを合わせ命名しました。

活動の取り組みにあたっては、既存の各団体が持つ特徴やノウハウ、アイデアを十分活用して実施しています。景観形成の植栽では、ひまわりを選定し「3集落の自治会」、「こぶし営農組合」、「小学校PTA」、「フラワーフレンドの会」及び「老人会」の各構成員が播種から片付けまでそれぞれの役割を担い実施しています。

まず活動計画を策定し、地区中央の小学校に隣接する40aにひまわりを植栽することとしました。

5月の種蒔きは、一部については、小学校PTA、各自治会などが手作業で行いました。また、残りについては、営農組合のアイデアで大豆の播種機を利用し、効率的に行いました。

6月～7月の除草でも大豆の小型管理機（畝上機）を利用して省力化を図りました。

8月には、ひまわりが一面に咲き誇り、児童による写生大会や写真撮影会など地域住民の交流活動の核となりました。この場所を通ると子供も大人も自然と笑みがこぼれ、より明るい地域になった様です。10月には、種の収穫や後片付けを老人会と小学校PTAが実施する予定です。

今後は、豊かな環境を生かし生態系も含めた自然環境の保全・回復を地域全体で進めることとしています。

（農地整備課農地・水・環境保全対策室）

\*\*\*\*\*

#### ◇ 「子ども農山漁村交流プロジェクト」を発表しました

8月31日（金）、農林水産省、総務省、文部科学省の3省は、平成20年度より「子ども農山漁村交流プロジェクト」をスタートすると発表しました。

「子ども農山漁村交流プロジェクト」は、農林水産省、総務省、文部科学省、が連携して、学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学生を対象に農山漁村での1週間程度の長期宿泊体験活動を推進するものです。

農林水産省では、全国2万3千校（1学年120万人を目標）で体験活動を展開することを目指し、子どもたち100人規模の受入が可能なモデル地域（1～数市町村）を全国で40地域設置し、このモデル地域を核として、今後5年間で、受入地域を全国約500地域に拡大することを目指して推進することとしています。

プレスリリース資料はこちらから

[http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/nouson/070831\\_1.html](http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/nouson/070831_1.html)

（農村政策課都市農業・地域交流室）

\*\*\*\*\*

◇ オーライ！ニッポン大賞の募集を今年度も行います

オーライ！ニッポン会議、農林水産省、(財)都市農山漁村交流活性化機構では、都市と農山漁村の共生・対流を推進し、国民への新たなライフスタイルの普及・定着を図ることを目的として実施している「オーライ！ニッポン大賞」の募集を今年度も行います。

今年度は、都市と農山漁村を結びつける活動等について優れた貢献のあった団体もしくは個人を対象とする「オーライ！ニッポン大賞」を4件、1ターン等により農山漁村において、個性的で魅力的な新しいライフスタイルを実践している個人を対象とする「ライフスタイル賞」を数件、それぞれ選定することとしています。

また、「オーライ！ニッポン大賞グランプリ」は、「オーライ！ニッポン大賞」受賞4件のほか、民間企業等が実施する表彰事業からの推薦案件の中から選定します。

地域で活動を実践されている皆様からのご応募をお待ちしています。

なお、詳しい応募要領等は、次号以降でお伝えする予定です。

(農村政策課都市農業・地域交流室)

\*\*\*\*\*

◇ オーライ！ニッポンWEBが全面的にリニューアルされます！

平成15年3月に、都市と農山漁村の共生・対流を推進することを目的として、関連する様々な情報を入手できる総合的なポータルサイトとして「オーライ！ニッポンWEB」を開設しています。

この度、「オーライ！ニッポンWEB」は、より一層見やすく、使いやすいポータルサイトとして、今月末に全面的にリニューアルされます。

リニューアル後は、「旅、食、住」等のテーマ別、地域別の情報検索が可能になるほか、サイト構築を自動的に行うCMS（コンテンツマネジメントシステム）の導入により、現地のイベント情報などを今まで以上にスピーディーに更新でき、最新の情報を旬の情報をタイムリーにお届けすることとしています。是非、新しい「オーライ！ニッポンWEB」にアクセスしてみてください！

<http://ohrai.jp/>

(農村政策課都市農業・地域交流室)

\*\*\*\*\*

◇ オーライ！ニッポン地方シンポジウムを山形県で開催

「～山形からの提案－新しい交流・滞在のカタチ、そして定住へ～」と題して、オーライ！ニッポン地方シンポジウムが、11月16日（金）に山形市の「ホテルメトロポリタン山形」で開催されます。

当日は、女優の藤田弓子さんの基調講演の他、「山形で過ごす至福の時間（と

き)～休日から定住まで～」をテーマに、地元の実践者を中心としたパネルディスカッションが行われます。また、シンポジウム終了後は、参加者による交流会(有料)も催されます。

さらに、翌17日(土)には、JR東日本による山形県を体感するオプションツアー(有料)も企画されています。

是非ふるってご参加ください。

詳しくは、次のHPでご確認ください。

<http://www.kouryu.or.jp/kyosei/19/yamagata/index.html>

(農村政策課都市農業・地域交流室)

\*\*\*\*\*

#### ◇ 全国農村アメニティ・シンポジウムの開催について

全国農村アメニティ・シンポジウムは、快適な農村の創造や農村アメニティの水準をいっそう高めていくため、各地域が有する経験や知恵を交流させることを目的に、年1回シンポジウムを開催しています。

今年は、10月18日(木)～19日(金)に、愛媛県内子町において「第19回全国農村アメニティ・シンポジウム」を開催することとしています。

今回のシンポジウムでは、東京農業大学の進士 五十八(しんじ いそや)教授の基調講演(「農村の風景づくりー地域の元気は、都市との連携共生対流からー」)を始め、地域づくりを実践している4名のパネリストによるパネルディスカッションなどを予定しています。

シンポジウムの詳細または参加申込みについては、事務局である財団法人農村開発企画委員会のHPをご覧ください。

<http://www.rdpc.or.jp/>

(農村政策課農村整備総合調整室)

\*\*\*\*\*

#### ◇ 農村景観パンフレット第2弾!

昨年に引き続き、美しい農山漁村づくりの取り組みを全国的に普及させることを目的として農村景観パンフレットの第2弾「農村景観 「農」の風景、発見そして活用」を作成しました。パンフレットは、農村景観という地域資源を活用して活性化を図ろうとしている5つの地域の活動過程を、昨年2月に結成された農村景観応援団との対話を交えて紹介しています。併せて、農村景観応援団からの応援メッセージを掲載しています。

皆さんの地域においても、このパンフレットをご活用のうえ、残したい景観を見だし、それを後世に継承する取り組みを進めてみてはいかがでしょうか。農林水産省のHPで紹介していますので是非ご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/21j/pamph02/index.htm>

(農村政策課農村整備総合調整室)

\*\*\*\*\*

■ 地域の実態に応じた多様な取組

◇ 観る人が「元気」をもらう劇団

～劇団ぜんとうようようくらぶ（代表志村尚一 岩手県花巻市）～

劇団ぜんとうようようくらぶは、年齢も職業も様々、いろんな個性が集まって『無限の可能性に挑戦している岩手県花巻を拠点に活動する劇団です。

劇団結成から早 22 年。しばらくは地元花巻を中心に活動していましたが、現在は「魅力あるふるさとづくり」に燃えている方々からのラブコールにお応えして、北は北海道から南は九州まで遠征公演もおこなっています。

今まで『介護保険』『男女共同参画』『食農教育』をテーマにしたミュージカルを全国で 300 回以上公演していますが、特に昨年から公演している品目横断的経営安定対策をテーマにした『集落営農ミュージカル』は、集落営農を単なる交付金の受け皿ではなく、農業や農村の活性化、自分達が今より幸せになっていくための大きなきっかけにしていこうと、心がひとつにまとまるまでの人間模様を泣き笑いたっぷりに描いた作品です。すでに、関東、北陸、東北地方で 30 回以上の公演をおこなっていますが、現在も全国各地から問い合わせがきているとのこと。

また、現在は『団塊世代のふるさと回帰』をテーマにした新作『田舎のチカラ』を東京都渋谷区のスペース・ゼロで公演すべく準備を進めています（主催は JA 岩手ふるさと）。ぜひご覧になってみてはいかがでしょうか。

○問い合わせ先：有限会社ウィルビー（熊谷）Tel0198-22-2071

<劇団の主な公演（講演）予定> 農業関係抜粋

10 月 20 日（土）東京都渋谷区スペース・ゼロ 『田舎のチカラ』主催：JA 岩手ふるさと

10 月 20 日（土）東京都渋谷区スペース・ゼロ 『田舎のチカラ』主催：岩手県

10 月 21 日（日）東京都渋谷区スペース・ゼロ 『田舎のチカラ』主催：岩手県

11 月 7 日（水）青森県田子町タプコピアンプラザ 『元気がでる講演会』主催：青森県男女共同参画センター

11 月 10 日（土）新潟県新潟市巻文化会館 『元気がでる講演会』主催：新潟市西蒲区役所

11 月 24 日（土）岩手県奥州市 Z ホール 『田舎のチカラ』主催：JA 岩手ふるさと

12 月 9 日（日）岩手県北上市黒岩小学校 『元気がでる講演会』主催：黒岩自治振興会

※『元気がでる講演会』とは、劇団代表志村尚一の講演に劇団員の歌と踊りを交えた、わかりやすく、楽しく、そして元気がでる新しいスタイルの講演会です。

（東北農政局 農村振興課）

\*\*\*\*\*

◇ 北東北まほろばシンポジウムを開催します

青森県は日本で初めて登録された世界自然遺産白神山地や縄文遺跡としては例をみない三内丸山遺跡などの人類が共有すべき財産のほか、豊富な自然や農林水産物などの多様な地域資源があります。

3年後に東北新幹線青森駅が開業されることになり、多くの人が青森県を訪れるものと予想されます。

こうした中、青森県の歴史と文化を再認識し、地元の魅力を「あずましく（気持ち良く）、自然が豊かな青森県」をスローガンに発信するため、「北東北まほろばシンポジウム」が開催されます。

○日 時 2007年10月21日(日) 午前10:00～午後15:30 (開場 9:30)

○会 場 アウガ 5階 男女共同参画プラザAV多機能ホール  
(青森市新町1-3-7 JR青森駅から徒歩4分)

○参加費 無料

○内 容 基調講演：「北東北を地球のまほろばに」川勝 平太（静岡文化芸術大学学長・国際日本文化研究センター客員教授）のほか、パネルディスカッションが行われます。

※プログラム等の詳細、につきましては、以下のサイトをご覧ください。

<http://school.shirakami.gr.jp/2007/20070907/shinpo/shinpo.htm>

※申し込み、お問い合わせ先

特定非営利活動法人 白神自然学校一ツ森校 事務局  
TEL・FAX：0173-82-7057

(東北農政局 農村振興課)

\*\*\*\*\*

■ 報告&お知らせ

◇ 「農山漁村の郷土料理百選」に係るインターネット人気投票の中間結果について

農林水産省では、全国各地に伝わる郷土料理のうち、農山漁村で脈々と受け継がれ、かつ「食べてみたい！食べさせたい！ふるさとの味」として国民的に支持されうる料理を「農山漁村の郷土料理百選」として選定します。

現在、インターネットによる人気投票を実施しています。人気投票には既に多くの人達の参加を得ており、9月18日現在、全国からの投票件数はおよそ1万6千票でした。

得票上位には秋田県の「きりたんぼ鍋」、熊本県の「馬刺し」、大分県の「手延べ団子汁」、山形県「いも煮」などが支持されています。

人気投票の締切は10月10日(水)です。人気投票の結果は、郷土料理百選選定の参考とし、12月中旬に郷土料理百選を選定します。是非、あなたの郷土料理を応援してください。インターネット人気投票は次のサイトをご覧ください。

<http://www.rdpc.or.jp/kyoudoryouri100/>

また、人気投票の中間結果は農水省HPをご覧ください。

[http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/nouson/070920\\_1.html](http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/nouson/070920_1.html)

(農村政策課農村整備総合調整室)

\*\*\*\*\*

### ◆◆ 編集後記 ◆◆

当室で担当している「農山漁村の郷土料理百選」インターネット投票の中間結果が報告されました。皆さんはもう投票されましたか？私もわがふる里の自慢料理に投票し、結果の行方を見守っているところです。

今回の郷土料理百選は、マスコミ関係の関心が高いことはもちろん、飲食業界、都道府県、市町村、個人などからの電話による問い合わせが殺到しています。やはり、国民の郷土を愛する気持ち、郷土料理への関心が相当高い証拠ではないでしょうか。

郷土料理百選のインターネット投票は引き続き実施していますので、まだ投票されていない方は今すぐ投票に参加し、ふる里の郷土料理を応援しましょう！（S）

<http://www.rdpc.or.jp/kyoudoryouri100/>

\*\*\*\*\*

### ◆◆ ご意見をお寄せ下さい ◆◆

本メールマガジンに対する皆さまの声を遠慮なくお寄せください。また、皆さまの地域での活動や取組の紹介などもお願いします。皆さまからのご質問・ご意見、地域の活動などの情報につきましては、可能なかぎり回答あるいは紹介させていただきます。

本メールマガジンに関するご質問・ご意見等については、次の農村振興局「ご意見・お問合せ窓口」のサイトから送信をお願いします。その際、様式の「テーマ」欄には“農村振興メルマガ宛”を必ず記載してください。

[https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM\\_NO=12](https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=12)

\*\*\*\*\*

### ■ 編集発行

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局企画部農村政策課（担当）佐藤

TEL:03-3502-5946 FAX:03-3595-6340

\*\*\*\*\*